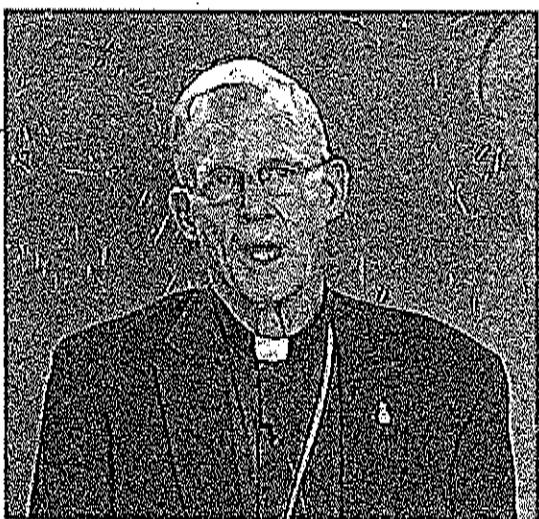


米のカトリック大司教訴え



講演で核兵器廃絶を訴えるウェスター大司教=10日（催しのオンライン配信のスクリーンショット）

【ワシントン＝島田峰隆】米国西部「ヨー・メキシコ州サンタフェのカトリックのジョン・ウェスター大司教は10日、「核兵器の廃絶は倫理的な重みを持つ課題だ」と語り、国際的な議論を深めて政治指導者に廃絶の具体的な措置を取りせようと訴えました。同大司教は、核兵器を開発するロバトモス国立研究所がある地域を管轄しています。

核廃絶 具体的措置を

ウェスター大司教は地元の平和団体「ニュークリア・ウォッチ・ニューメキシコ」がサンタフェ市内で開いた催しで講演しました。フランシスコ・ローマ教皇が「核兵器は保有自体が倫理に反する」と繰り返し述べていると指摘し、パチカン（ローマ教皇）は核兵器禁止条約をもつと早く署名・批准した国だと紹介しました。

また「核兵器がある限りわれわれは全面的に生き生きと暮らすことはできない」と強調。「膨大な核兵器予算を節減対策、教育、途上国支援に使えばどれだけのことができるだろうか」と語り、核廃絶に向けた交渉を政治指導者に求め

ウェスター大司教は8月に広島と長崎を訪問しました。「連帯と支援の町として日本のみなさんと原爆犠牲者を追悼し、核廃絶を取り組む教区と連携したい」と述べました。

催しに出席した「ニューカリア・ウォッチ・ニューメキシコ」のジェイ・グラント事務局長は、5月の主要7カ国（G7）首脳会議の「広島宣言」について「非常に失望した」と語りました。「核不拡散条約（NPT）で核保有国に義務付けられた核軍縮交渉の義務不履行について何の批判的自省もなかった」と指摘しました。